

Factors Associated With Mental Health Outcomes Among Health Care Workers
Exposed to Coronavirus Disease 2019

著者 Jianbo Lai, MSc et al、浙江医科大学精神科

中国では 2002 年から 2003 年にかけて SARS を経験して以来、感染症対策に巨額の予算を
投じ体制づくりを行ってきました。また当時情報を隠匿し公開しなかったため人々は
パニック、暴動まで起こしました。今回はかなり情報がオープンにされているように
思えます。

JAMA, March23, 2020 に浙江医科大学精神科や武漢大学医学部精神科の医師たちにより
COVID-19 に対処した中国 34 病院 1,257 人の医師、ナース達の精神状態を調べた論文が
ありました。

ポイントは次の 2 点です。

- ① COVID 治療の医療者 1,257 人中、うつ 50.4%、不安 44.6%、不眠 30.4%、苦悩 71.5%。
- ② とくに地元出身の医療者で精神症状が多かった。

この論文では 4 つの精神状態を下記のようなスケールを使用して 1 月 29 日から 2 月 3 日
まで調べています。

- ・鬱状態 (depression) : PHQ-9 (9 項目)
- ・不安 (anxiety) : Generalized Anxiety Disorder scale (7 項目)
- ・不眠 (insomnia) : Insomnia Severity Index (7 項目)
- ・苦悩 (distress) : Impact of Event Scale-Revised (22 項目)

際限なく増え続けるコロナ患者、圧倒的仕事量 (overwhelming workload) 、
PPE (personal protection equipment) の不足、治療薬の存在しないこと、
サポート不足、大々的メディア報道などは医療者を精神的に追い詰めました。
また家族、友人、同僚に感染させるかもしれない恐怖、また周囲からの危険視・汚名
(stigma) 、可能なら仕事を忌避したい、辞職したいとの願いもあります。
これらにより医療者は高度のストレス、不安、うつ状態に追い込まれました。

このスタディの対象は 1257 人のうち、医師 39.2% (493 人) 、看護師 60.8% (764 人)
です。勤務地は 60.5% が武漢、20.8% が湖北省 (武漢が省都) 、18.8% がそれ以外です。
76.7% が女性です。41.5% が最前線で COVID-19 の診断、治療、ケアに携わりました。

結果は 50.4% (634 人) にうつ症状、44.6% (560 人) に不安、30.4% (427 人) に不眠、71.5% (899 人) に苦悩 (distress) が見られました。

また、うつ、不安、不眠、苦悩の全ての頻度は武漢出身者>武漢以外の湖北省出身者>湖北省以外の出身者の順になりました。

当、西伊豆健育会病院には中国出身の看護師が何人もいるので、尋ねたところ、中国全土から武漢に派遣されたのは ICU、CCU の看護師たちだとのことでした。中国の看護師教育は中学、または高校卒業後に 3 年間、大学卒業後に 4 年間看護学校へ通うのだそうで、資格は同じとのことでした。

2015 年 11 月 13 日のパリ多発テロの際、テロ発生の 1 時間後の 22 時 34 分に、white plan (plan blancs) が発動されパリ市内の全 40 病院がスタッフを招集、大量の外傷患者に対してベッドを用意しました。また予備 (reservoir) として複数の大学病院、パリ近郊の病院にもアラートを発動し患者受け入れ準備を開始しました。

[パリ多発テロに対する救急対応 The Lancet, December 19/26, 2015](#)

(パリ多発テロに対する救急対応 The Lancet, December 19/26, 2015
西伊豆早朝カンファ)

小生が驚いたのは、同時に精神的サポートのセンターも立ち上げ精神科医 35 名、看護師、ボランティアもパリ中心部の Hotel Dieu に参集したことです。

さすが精神医学の本場、フランスだなあと感心しました。

このような時に最初から精神的サポートまで考慮するのは、なかなか思い至りません。

クライシスの時は、外傷、一般疾患だけでなく医療者の精神的サポートも考慮する必要があるのだなあと感じました。